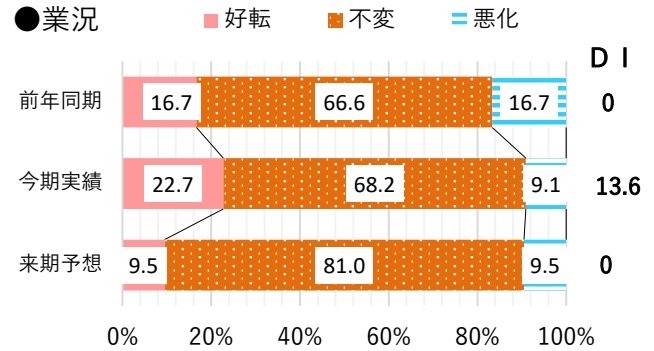


建設業

業況、売上、採算

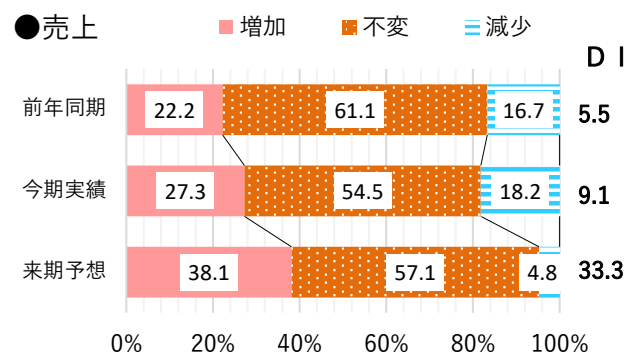
今期（2026.4～6）の業況DIは13.6で、前年同期（2025.4～6）と比べ13.6ポイント上昇しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは0で、今期（2026.4～6）と比べ13.6ポイント低下すると予想しています。



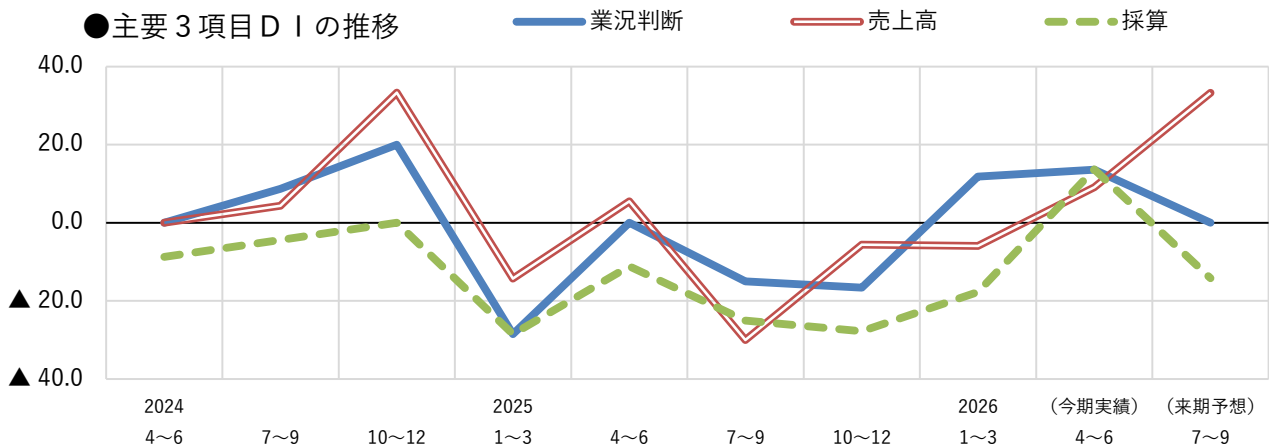
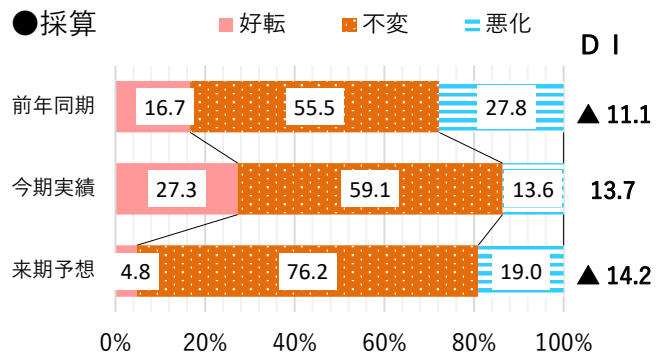
今期の売上DIは9.1で、前年同期と比べ3.6ポイント上昇しました。

来期の売上DIは33.3で、今期と比べ24.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは13.7で、前年同期と比べ24.8ポイント上昇しました。

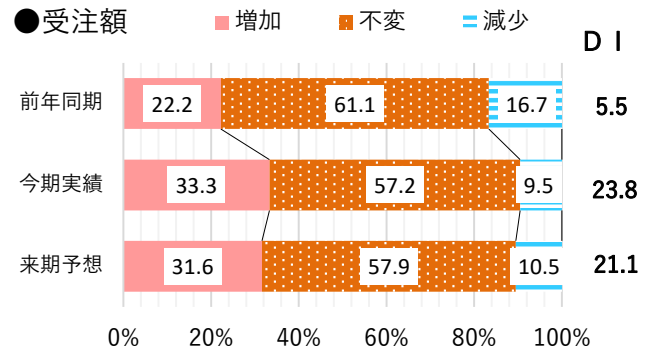
来期の採算DIは▲14.2で、今期と比べ27.9ポイント低下すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

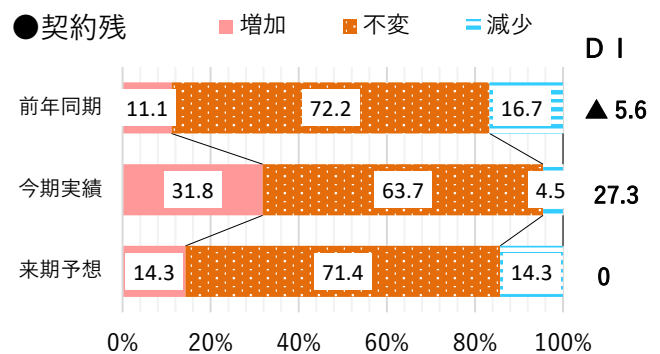
今期の受注額DIは23.8で、前年同期と比べ18.3ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは21.1で、受注額と比べ2.7ポイント低下すると予想しています。



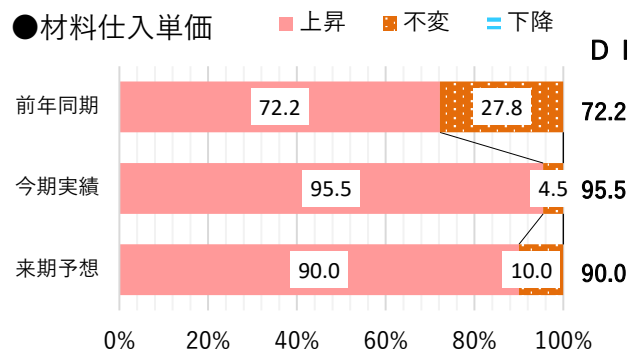
今期の契約残DIは27.3で、前年同期と比べ32.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期の契約残DIは0で、今期と比べ27.3ポイント低下すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは95.5で、前年同期と比べ23.3ポイント上昇しました。

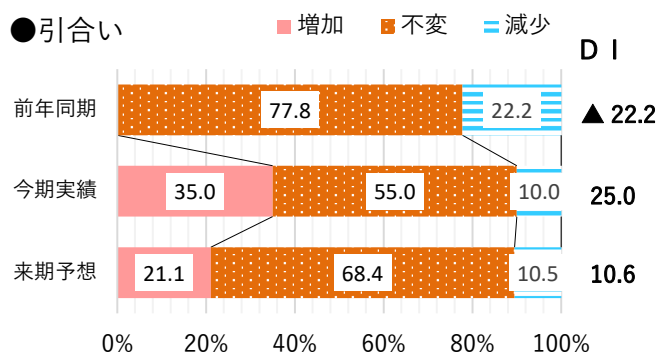
来期の材料仕入単価DIは90.0で、今期と比べ5.5ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは25.0で、前年同期と比べ47.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期の引合いDIは10.6で、今期と比べ14.4ポイント低下すると予想しています。



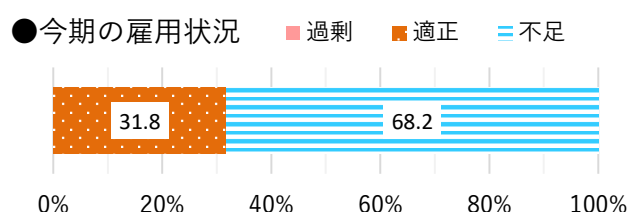
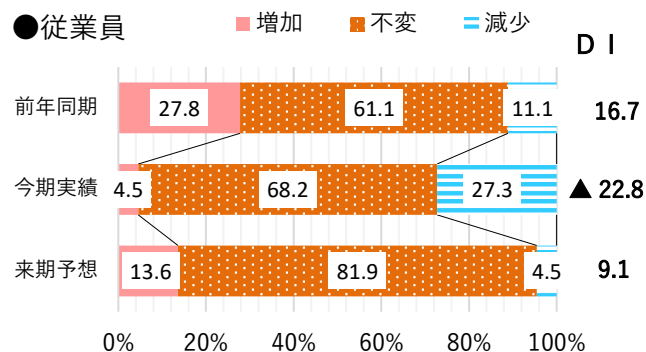
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲22.8で、前年同期と比べ39.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の従業員DIは9.1で、今期と比べ31.9ポイント上昇すると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は31.8%、不足していると回答した企業の割合は68.2%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、40.9%を占めました。



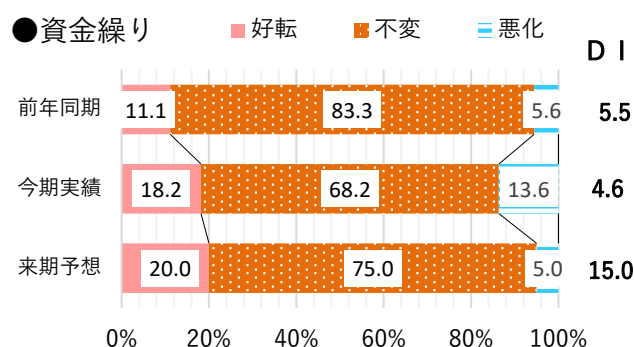
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	4.5%
	不足	0%
不変だった	過剰	0%
	適正	27.3%
	不足	40.9%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	27.3%

※回答総数22社

資金繰り、設備投資

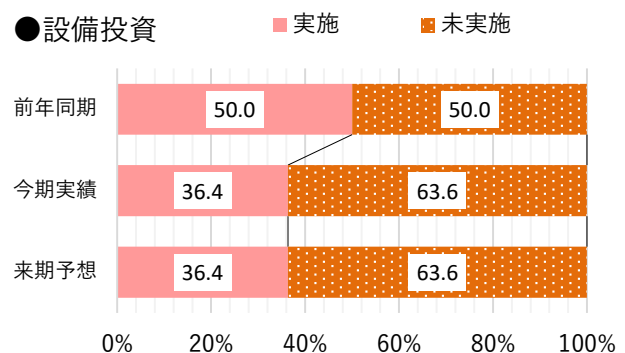
今期の資金繰りDIは4.6で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは15.0で、今期と比べ10.4ポイント上昇すると予想しています。



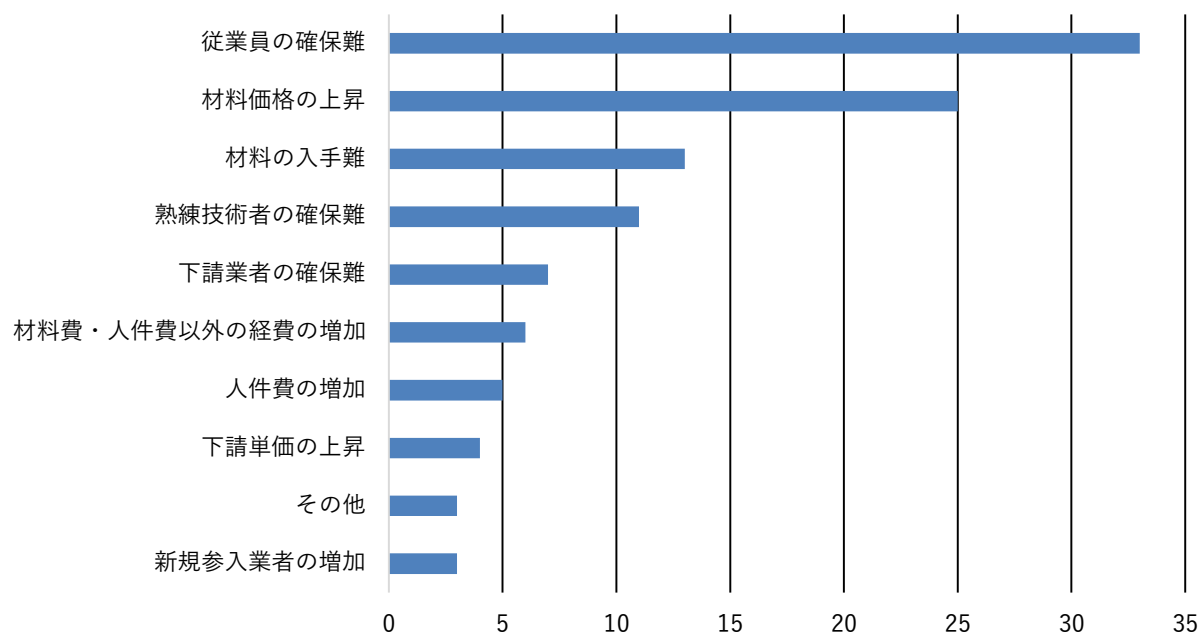
今期の設備投資は36.4%が実施と回答し、前年同期と比べ13.6%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」「OA機器」（同位）、2位が「土地」「建物」「建設機械」（同位）でした。

来期は36.4%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「材料の入手難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 受注件数と受注額は不変だが人件費の増加や資材高騰により利益が減少している。（一般土木工事業）
- 技術者の確保が課題である。（一般土木工事業）
- 人材確保が課題である。（一般土木工事業）
- 仕入価格が上昇した。（一般土木工事業）
- 人材確保に難航している。（造園業）
- 資材関係の値上がりはあるものの、価格に転嫁できている。（一般管工事業）
- 人材確保が難しい。（電気通信・信号設置工事業）
- 資材費の上昇が目立つ。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 公共事業を中心としており、前年度並みの応札を予定しているが人件費の増加や資材高騰による利益の減少は避けられない。（一般土木工事業）
- 人材不足を予想している。（一般土木工事業）
- 原価の上昇は続くと予想しているが、価格への転嫁も引き続き可能だと考えている。（一般管工事業）
- 中東情勢の影響で資材の入手が困難にならないか不安である。（電気工事業）